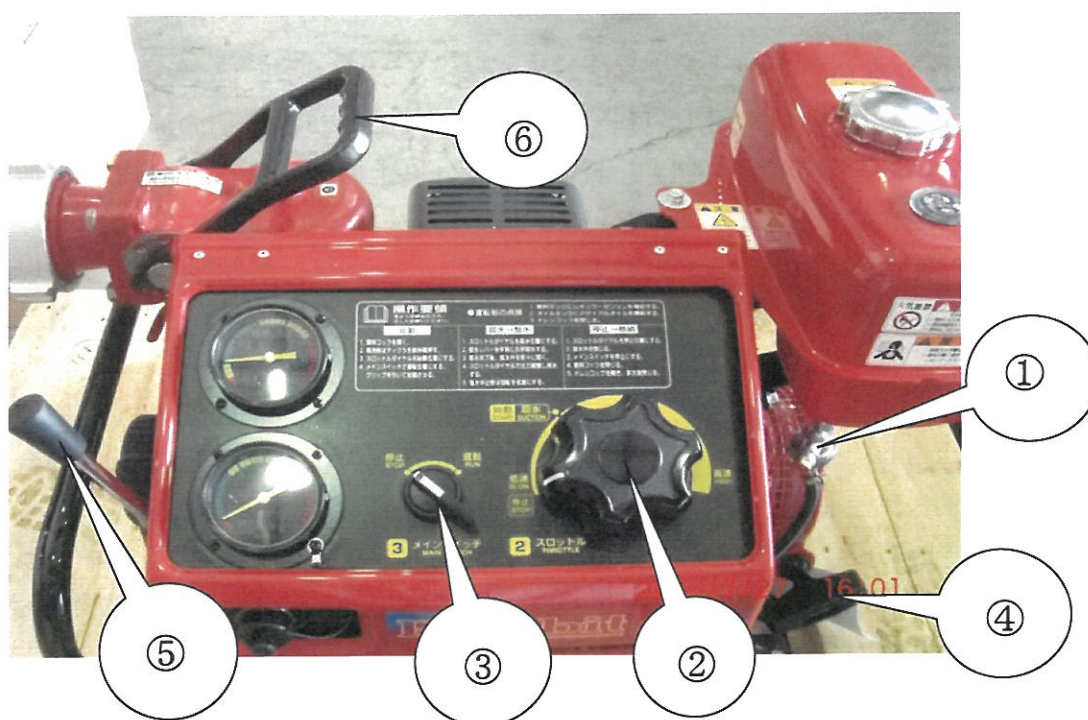


ラビット消防ポンプ P383M 簡易取扱説明書



はじめにガソリンと 2 サイクルオイルが入っているかを確認します。ドレンコックが閉じられているかを確認し、吸水管をしっかりと取り付けて下さい。

1. 運転（始動→吸水→放水）

- 1) 燃料コック①を開きます。
- 2) スロットル②を「始動・吸水」の位置にします。
- 3) メインスイッチ③を運転の位置まで回します。
- 4) ④のリコイルスターターをポンプのフレームを足でしっかりと押さえながら両手で勢いよく引っ張りエンジンを始動させます。
※スターロープの引き方とデコンパルブについては別紙参照
- 5) エンジン始動後、吸水レバー⑤を手前に引き真空ポンプを作動させ、排水ホースから水が出たら吸水レバーを離します。
- 6) 筒先の安全を確認し、放水弁ハンドル⑥をゆっくりと開けスロットル②で必要な圧力に調整しながら放水して下さい。

2. 停止・保管

- 1) スロットル②を低速にして放水弁ハンドル⑥を閉じて下さい。
- 2) メインスイッチ③を停止の位置まで回します。
- 3) 燃料コック①を「閉」にします。
- 4) 放水口下部とポンプケーシング下部のドレンコックを開けます。
- 5) 排水後、各ドレンコックを閉めます。
- 6) キャブリードレコックを引き、キャブ内の燃料を抜きます。

3. その他注意事項

- 1) 空冷エンジンとなりますが、長時間の空運転はエンジン不調の原因となりますので3分以内にするようにして下さい。3分以上の運転を行う際は放水運転をするようにして下さい。
- 2) エンジンが温まった状態で再始動する時に、エンジンが始動しにくい場合はスロットルダイヤルを低速の位置に合わせてリコイルスターターを引くようにして下さい。
- 3) 燃料のガソリンは長期保管しておくると劣化しますので、6ヵ月以内に使い切るか新しいガソリンと交換して下さい。6ヵ月以内に継ぎ足している場合は交換は必要ありません。
- 4) 長期間使用しない場合はキャブレターの詰まりを防止するため、キャブレターのドレンコックを引いてフロート内のガソリンを抜いてから保管して下さい。
※抜いた燃料はその都度処分してください。

キャブレタ ドレンコック



リコイルスターターの引き方



少し重たくなるまで引き出した

後、足でフレーム等を押さえて、必ず

両手で勢いよく引いて下さい。

腕だけで引くのではなく、体重をかけ

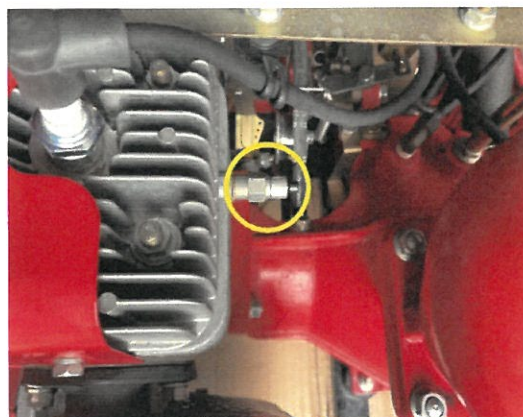
て引くのがコツです。

デコンプバルブについて

リコイルスターターの引き力を
軽減させるため、デコンプが装備
されています。

スターターを引き出した時

「シュー」と漏れ音がすれば正常



です。漏れ音がしない場合はデコンプ上部のボタンを押してください。

※ボタンを押しても漏れ音がしない場合はデコンプの故障が考えられます。